

PROJECT



生物多様性の保全

本県は、豊かで多様な自然環境に恵まれ、その中で、多くの種類の野生動植物が生息・生育しています。

しかし、近年の都市化の進展や各種の開発事業等によって、野生動植物の生息・生育地である森林や緑地、湿地等が減少しつつあります。

自然特性の明確化

- 地形・地質、植生、鳥獣、昆虫、両生・爬虫類、陸水生物、景観といった自然特性ごとに自然環境の現状を詳細に調査し、保全すべき地域や種を明らかにした「自然環境管理計画」を策定し、多様な自然環境の保全に努めます。

希少な種の保全、保護

- 本県における希少で保護上重要な野生動植物種を選定し、その保全に努めます。
- イヌワシ^{*1}、ヤシャゲンゴロウ^{*2}等「種の保存法」で指定された絶滅のおそれのある種について、生息状況の把握に努めるとともに、生息環境に関する調査・研究を行い、その保護対策を進めます。

ビオトープ

- 開発事業の実施に際しては、動植物の生息・生育環境に配慮し、多様な動植物の生息・生育空間として貴重な河川・湖沼・自然海岸や湿地・ため池等の確保に努めます。
- 環境を緑と水が織りなす連続的な空間として整備し、野鳥や昆虫、水生生物などの身近な生き物が生息し、移動しやすい空間づくりを進めます。

(※1) イヌワシ：ワシタカ目ワシタカ科の鳥類。全長約85cm、翼の開張は2m、飛翔力に優れ、黒褐色をした山ワシで、国の天然記念物にも指定されている。

(※2) ヤシャゲンゴロウ：甲虫目ゲンゴロウ科の昆虫。水生で、今庄町夜叉ヶ池だけに生息する固有種である。